

平成19年12月26日

環境・生命工学専攻	
申請者氏名	細田智久

紹介教員氏名	渡邊昭彦
--------	------

論文要旨(博士)

論文題目	米英のフルサービススクールの利用諸室等の研究
------	------------------------

(要旨 1,200字程度)

1章では、米英のフルサービススクールが児童生徒、その家庭や地域に学習から生活までの積極的な支援を行う新しいタイプの学校であることを説明する。また、米英日における学校を支援する政策の動向を考察し、地域の参加によって学校を支援する方向にあることを説明する。研究目的は、実態調査結果に基づき、フルサービススクールのソフト面のサービス内容やサービス組織の構成、ハード面の児童生徒を支援するための利用諸室の実態を明らかにすることを目的とする。これらの結果から、我国の学校内で児童生徒への学習支援・健康支援をより積極的に実施する際の利用諸室の計画などに関する提言を行う。

2章では、我国の学校施設計画に関する過去10年間の動向と本研究の位置づけを考察し、本研究の独自性を説明する。また、米国のフルサービススクールに関する調査報告や著書に関する動向を考察し、フルサービススクールの名称の確立過程や先進事例の活動状況が出版されている状況を説明する。

3章では、実態調査校46例の結果に基づき、学校内で行うサービス内容を対象別（児童生徒、家庭、地域）と支援内容別（学習支援、生活支援）に分類し分析する。この結果から、代表的なサービス組織や各学校事例の支援範囲を明らかにし、児童へのアフタースクールや心身の健康支援が最も多くの事例で行う重要な支援であることなどを明らかにする。

4章では、サービス組織について、主体となる組織タイプ別（州、市や学区、民間組織など）の代表7例を分析する。主体となる組織の種類による役割の違い、協力組織や学校との連携の方法、支援の効果などを明らかにする。

5章では、サービス組織が学校内に設けるサービス拠点について、確保の方法別（ポータブルユニット、改修、既存活用、新設時の4つ）に代表16例の配置図と拠点内の家具レイアウト図を用いて分析する。サービス拠点の設置の経緯を明らかにすると共に、確保の方法別の配置計画及び諸室構成の特徴を明らかにする。

6章では、サービス内容の実施率が最も高いアフタースクールの利用室について代表8例を分析する。分析例は設置方法から、学校の教室を利用するタイプIとサービス組織が専用室を設けるタイプIIに分類でき、配置図や室内の家具レイアウト図を用いた分析から、放課後の安全確保の方法、専用室の設置方法、指導方法と家具との対応等を明らかにする。

7章では、アフタースクールに次いで実施率が高い健康支援の利用室であるヘルスルーム9例とカウンセリングルーム6例を分析する。配置図を用いた分析から、改修などで設けた事例が多い中でも、サービス拠点や学校管理諸室との連携し易さ、ヘルスとカウンセリングとの連携し易さ、児童の立寄り易さに配慮して設置していることなどを明らかにする。さらに、室内の家具レイアウト図を用いた分析から、機能別の室や家具コーナーの役割を明らかにすると共に、機能別の室の構成によって、入口部分の入り易さと奥側の静養や個別相談し易い落ち着きを確保することを明らかにする。

8章では、米英のフルサービススクールの利用諸室等の実態をまとめ、そこから我国の学校を地域と連携して支援する仕組みや学内への利用諸室の設置の際に有用な提言を行う。